



## 「配慮」という名の差別 ～その配慮が誰かを苦しめている??～

相手のために思ってした配慮。ところが、実はその行動がむしろ相手を苦しめているということがあるということを考えたことがあるでしょうか？ ジェンダー研究の第一人者である上野千鶴子さんは、そうした対応を「配慮という名の差別」と呼んでいます\*。今回はそんな余計な配慮について取りあげます。

※上野千鶴子『これからの時代を生きるあなたへ』より

### 例えば、こんな「配慮」の数々

上司



Aさんはお子さんが小さいから、出張は無理だろう。Bさんに対応してもらおう。



→「無理」かどうかは本人が決めることです。子育て中は大変だろうという配慮のつもりでも、Aさんの経験や成長の機会を奪うことになりかねません。まずはAさん本人に打診して、話し合ってみることから始めましょう。

Cさんは育児休業の取得を希望しているみたいだが、奥さんは専業主婦だから、収入に不安もあるだろう。稼ぐのが父親の仕事だと伝えておこう。



同僚



→Cさんが希望しているのであれば、本人の意思に最大限沿う形で対応する必要があります。アドバイスは大切ですが、男性が育児に関わる権利を奪うことにならないように、本人の意見を尊重できるように心がけましょう。

町会の会議



町会のイベントで炊事の担当を決めないといけなく、役員Dさん（男性）がやるのは難しいだろうから、Dさんの奥さんに来てもらおう。



→Dさんの趣味は実は料理。家庭では毎日、おいしい料理をふるまっています。男性が料理ができないという思い込みから来る「配慮」をせず、確認してみるといいですね。町会で自慢の料理をふるまうイベントを企画しても面白いかも。

この他にも様々な場面で良かれと思ってした「配慮」が、実は差別に繋がっているということがあります。思いやりの気持ちを持ちつつ、相手への押し付けになっていないか考える癖を付けられるといいですね。



## 3/8は国際女性デー

1904年にニューヨークで、女性参政権を求めるデモが起こったことをきっかけに、国連が定めた国際デーです。「国際婦人の日」「国際女性の日」などとも呼ばれます。

イタリアではミモザを女性同士が送り合う文化があり、日本でも国際女性デーにあわせて街中でも黄色いミモザを見かけることが多くなりました。

30に近い国が3/8を祝日としています。中には、女性だけ祝日という国もあるそうです。日本では考えられないですが、そんな文化も面白いですね。



## 今月知っておきたい言葉

### マミートラック

出産を経験した女性が、職場に復帰して、自分の意志とは関係なく、出世や管理職のルートから外れられてしまうこと。

補助的な仕事への業務変更や勤務時間の変更などが挙げられる。女性の労働意欲の喪失や女性幹部の育成が滞るなどの問題が指摘されており、労働者・会社双方にとって大きな問題とされる。



## 新着図書のご紹介



パレア松本には図書コーナーがあります。どなたでも自由に本を読んだり、借りたりすることができます。



### 『生皮 あるセクシャルハラスメントの光景』

(井上荒野著、朝日新聞出版、2022年)

自分は本当は嫌なのに嫌じゃないと思うように意識して、相手に従った経験はありますか。知らず知らずに自分を蝕んでいくことの怖さを知る一冊。「あなたは間違っている」と声を上げることの大変さを感じます。

### 『あなたはもう、自分のために生きていい』

(Poche 著、ダイヤモンド社、2022年)

「自分のために生きるってどういうこと？」と実感を持ってない人に是非読んで欲しい本。考え方のクセはなかなか直りませんが、まずは自分を認めて、本当の気持ちと向き合うところから、あなたの人生が始まります。



このニュースレターは、松本市公式ホームページでも見ることができます。

**Facebook、Twitter もやっています！**

松本市女性センター



<編集・発行>

松本市 人権共生課 (松本市女性センター)

〒390-0811

松本市中央 1-18-1 Mウイング3階

TEL 0263-39-1105 / FAX 0263-37-1153

✉ kyousei@city.matsumoto.lg.jp